

景観とコミュニティの再生  
— 田村市都路町頭ノ巣を事例に —

福島大学経済経営学類

藤原遥ゼミナール



# 目次

---

1. ゼミの活動内容
2. 田村市都路町の概要
3. 頭ノ巣集落の概要
4. 活動実施前の集落のイメージ
5. 実際に行った活動の紹介
6. 活動を通じて発見したこと
7. 今後取り組んでいきたいこと



# 1. ゼミの活動内容

---

- 福島県田村市都路町頭ノ巣集落をフィールドに、「山の暮らしの再生」をテーマに研究。
- 景観班とコミュニティ班の2班に分かれて、現地調査と文献調査を行ってきた。
- 頭ノ巣集落に住む人々にとっての豊かさとは何であったかを考え、そこから、東京電力福島第一原発事故によって失ったものを把握する。そのうえで、豊かさを取り戻すためには何が必要であるかを研究している。



## 2. 田村市都路町の概要



図1 福島県の道路網図と田村市の位置  
出所: 福島県「福島県の道路網図」より作成。  
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41035a/map.html>)

- 人口

2188人(2020年10月1日時点)

- 地理的要素

福島県東部にある阿武隈高地の中心に位置し、豊かな自然に恵まれた地域。福島第一原子力発電所から30km圏内に位置し、原発事故後は全域が避難指示区域に指定され、2014年4月にはすべての避難指示が解除された。

- 地域の生活・生業

田村市都路町の生活・生業は山の恵に支えられてきた。シイタケ原木生産を主とした林業が営まれ、山菜や野生キノコが地域の食文化をつくってきた。原発事故にともなう放射能汚染により、いまなお山の資源の利用には制限がかかっており、生活や生業に影響を及ぼしている。



# 3. 頭ノ巣集落の概要

---

## ● 人口

58人、27戸(2021年1月時点)

58人のうち34人が**65歳以上**、高齢化率**58.6%**

## ● 地理的要素

標高450~650m、全長8km

集落中心に集会所と二柱神社がある。学校や商店はない。

## ● 地域の生活・生業

**耕作条件は厳しい**。自然資源を活かし、米・野菜の生産や、畜産、シイタケ原木生産などの農林業を主要な生業としてきた。山の恵を享受して生活をしてきたが、原発事故後は、放射能汚染の影響で山に立ち入ることや、山の資源を利用することが難しい。



## 4. 活動実施前の集落のイメージ

- 若者はほとんどいない。
- 自然は豊かであるが、娯楽施設やスーパー・コンビニなどの施設がまったくない。
- 自給自足の生活を送っているイメージを持った。
- 地域特有の自然資源が豊富にある。





## 5. 実際に行った活動の紹介

---

- 集落歩き
- 人と自然のふれあい調査(日本自然保護協会のハンドブックに基づき実施)
- 過去に行われていた季節の行事について聞き取りをして、模造紙にまとめた。住民から、当時の想いと、今の想いを伺った。





## 6. 活動を通じて発見したこと(課題)



### 【景観】

- 原発事故による耕作放棄地、空き家の増加
- 鳥獣被害による耕作意欲低下
- 農業の後継者不足



### 【コミュニティ】

- 原発事故にともない人口減少や少子高齢化が加速した。
- 原発事故後に集落の行事が減り、住民同士が集まる機会が減少した。
- 放射能汚染により山菜や野生キノコなどの里山資源を利用することができず、伝統食継承の危機に直面している。



## 6. 活動を通じて発見したこと

### 【景観】

- 「集落を美しいかたちで畳む」という思想
- 「ひと葉の風」の活動
  - イチョウのライトアップ
  - 耕作放棄地を活用して赤蕎麦を試験栽培
  - 集落の入り口に花を植える

### 【コミュニティ】

- 血縁関係のある家が多く、住民の相互扶助の意識や、連帯感が高い。
- 集落の集まりが減少したことに寂しさを感じている住民が多い。
- 集落の集まりでは、住民が地元の食材を用いた手作りの食事を持ち寄っていた。食がコミュニティを形成していた。



## 7. これから取り組んでいきたいこと

---

- 集落を美しく畳むための景観づくり
  - 耕作放棄地を活用して、赤蕎麦や、グランドカバープランツ、ラベンダー、ハーブの栽培。公園・キャンプ場を整備。
  - グリーンツーリズム（農業体験、伝統文化の体験）
- コミュニティのつながりを深める
  - 住民同士が集まる機会を増やす（伝統食づくりや収穫祭など）。
  - 集落の歴史や暮らしを記録する本や、伝統食のレシピを集めた本をつくる。